

第三回図書館ゼミ



速報新聞

キマグレ

発行所
彦根東高等学校
新聞部
彦根市金亀町4番7号

▲熱心に人生について語られる津布良先生

津布良先生は初めに「今回の図書館ゼミで私が本を読んだことを伝えたいと思っている。また今回の図書館ゼミが、みなさんが哲学の世界へ入るきっかけとなるようにしたい」と打ち明けられた。続けて今夏に話題になったボランティアのことを交えて「ボランティアをする人はある目的に向かって一直線に進んでいる。仏教に『他者に利を与える』という意味の『利他』という言葉がある。昔の賢者はボランティアと同じように人生の目的を考えていた」と仏教の考えについて話された。また「何のために勉強しているのか」と問うと、ほとんどの人が良い大学に入る

9月26日に第三回図書館ゼミが開催された。今回の図書館ゼミでは国語科の津布良春輝先生が「読書と人生」というテーマで話された。

ためと答えると思う。だが良い大学に入ったところで何を学べばいいのかわからず、何もせず大学4年間で終わってしまうことがある。若いうちは答えがはっきりとわからなくてもいいから、少しでも考えることが大切だ」と呼びかけられた。

津布良先生は幼稚園のころから小学校6年生まで毎日古典の素読をされていたそう。「小学校5年生のとき、素読を通して孔子の言わんとしたことがわかってきた。父と孔子の生き方について話していくと、正しい生き方をするのは大変なことだ」ということが直感的にわかった。そのとき、いかに生きるべきかと

津布良先生が紹介された本

- ・『善の研究』西田幾多郎
- ・『学問のすすめ』福沢諭吉
- ・『福翁自伝』福沢諭吉
- ・『社会契約論』『告白』ルソー
- ・『莊子』莊子
- ・『湯川秀樹全集』湯川秀樹
- ・『読書について』ショーペンハウワー
- ・『パイドロス』プラトン
- ・『逝きし世の面影』渡辺京二
- ・『ソクラテスの弁明』プラトン
- ・『論語の講義』諸橋徹次
- ・『論語』吉川幸次郎 ほか全22冊

津布良先生は幼稚園のころから小学校6年生まで毎日古典の素読をされていたそう。「小学校5年生のとき、素読を通して孔子の言わんとしたことがわかってきた。父と孔子の生き方について話していくと、正しい生き方をするのは大変なことだ」ということが直感的にわかった。そのとき、いかに生きるべきかと

津布良先生は「読書はたくさん経験を積む必要がある。今読んでもわからないことが、急に心に響いてくるか刺さるかは、読まなければわからないことだ」と訴えられた。



▶津布良先生は仏教の教えも交えて話された。